

第5回「第6次ニセコ町総合計画策定審議会」議事録

日 時	2024年2月9日(金) 14:00~15:30
場 所	ニセコ町役場多目的ホール
参加者	委 員：新井 和宏、工藤 三智子、新谷 典子、瀬戸口 剛、中江 綾、 西澤 純、長谷川 博史、松田 裕子、村上 敦、レナード トレーシー、 若杉 清一 (Zoom 参加) 事務局：山本 契太 副町長 黒瀧 敏雄 企画環境課 課長 阿南 孝宏 企画環境課 参事 佐々木 潤 企画環境課 経営企画係長 大野 百恵 企画環境課 経営企画係主査 吉田 智也 企画環境課 経営企画係主事 切通 堅太郎 一般社団法人北海道総合研究調査会 調査部長 野邊 和沙 一般社団法人北海道総合研究調査会 調査部 研究員 ※ほか傍聴1名

1 開会

2 副町長挨拶

【副町長】

いつもありがとうございます。本日は総合計画の最後の集まりとなり、仕上げの会議になる。これまで総合計画については小さな世界都市、環境創造都市をテーマとして掲げてきた。今回はキャッチフレーズを決める作業になる。皆さんの知恵を結集していただきたい。町長から、テーマに対するリクエストとして、サブタイトルは長くていいが、第4次、第5次と同じように頭のテーマは短くまとめてもらいたいとのことだった。今日はどうぞよろしくお願い致します。

3 事務局からの説明

【会長】

今日は最終的なキャッチフレーズを決めるため、皆さまの知恵をお借りしながらやりたい。

①キャッチフレーズ：2035年のニセコ町の目指す姿（基本理念）

※事務局より説明 資料1、資料2

②第6次ニセコ町総合計画素案

※事務局より説明 資料3

4 議事

①キャッチフレーズ：2035年のニセコ町の目指す姿（基本理念）

【委員】

◎キャッチフレーズ案

→「今ある自然を守り育て、未来の子どもたちに伝えていこう」

サブタイトルは長いほうがいい。キャッチフレーズ案は、今の自然を守るだけでなく、育てて次の世代につなげる、未来の子どもたちにも伝えていこうという発想から生まれた。ニセコ町は

世界から恵まれた土地と言われているのに、開発で壊されたくない。開発にしてもいい開発がある。それを未来につないでいかないと壊れてしまう。

【委員】

◎キャッチフレーズ案

→「未来の子どもたちがずっと住みたくなる、美しい自然と生きる町ニセコ」

このキャッチフレーズは前回の皆さんの意見からまとめたもの。長い・短い、取扱いしやすい・しにくいがあるが、共通して言えるのは「自然」自体に重きを置いているので、それをうまい表現としてもってこななければならない。環境問題は難しいが、自分の意識の中では自分が生まれる前よりも自分が関わってよくしたいという思いはある。そういう意味で、害にならないように生きていきたい。「育てる」という言葉がうまく出ればいい。その趣旨が伝わるようなワードが重要。

【会長】

最後はキーワードをいかに組み合わせて、積み重ねていく作業になると思う。松田委員から「自然」「守る」「育てる」「伝える」というキーワードが出てきたが、「美しい」という言葉もキーワードの一つとしてある。

【委員】

東京にいた時は美しいと言ったことはないが、ニセコ町に来てから毎日美しいと言っている。「美しい」はニセコ町の特徴であり、調和していて美しいと思う。調和していないものが建物としてであると残念に思う。鎌倉市は条例で建物の色を規定できているのに、ニセコ町にはなく残念に思う。

【委員】

◎キャッチフレーズ案

→1.「美しく、住みやすいまちニセコ」

→2.「美しいニセコを守る～未来の子どもたちのために」

2案目の「美しいニセコを守る～未来の子どもたちのために」は前回の議論で皆さんの意見をまとめたもの。1案目の「美しく、住みやすいまちニセコ」は長谷川副委員長がずっと言われている「住みやすいまち」というワードに共感したもの。自然環境を守るというようなものは基本目標1に設定しているので、それを象徴するものとして「美しい」というワードを組み合わせた。

【委員】

◎キャッチフレーズ案

→「誰からも愛される自然豊かなニセコ町をいつまでも～そこで子供たちが輝けるように 大人が責任を果たす町」

わかりやすい言葉でしっかり伝えたいと思い、あえてキャッチフレーズは長くした。町民から愛される町であってほしいし、住みやすいという意味も含めている。訪れる観光客やニセコに関わりのある人にとって愛されるまちであってほしい。「美しい」と共通するが、ニセコの良さは自然の豊かさ。我々の代で自然を壊してはならない。それを未来につなげるということを簡単な言葉でわかりやすく示すために「いつまでも」とした。将来世代である子どもたちが輝いて色々な

ことにチャレンジできるようなフレーズにしている。キャッチフレーズでかっこいいことを言っても大人としての責任を果たすことにならない。大人の覚悟を示さなければならない。

【会長】

「こども」や「責任」は引き締まる言葉だと思う。

【委員】

◎キャッチフレーズ案

→「こども達とつくる世界一住みやすい町」

「住みやすい」で一括りにできないかと思い、この言葉にした。このテーマにした理由は3つある。1つ目はゴールがわかりやすいということ。住みやすいというのを評価する上で数値化されるが、ニセコ町が挙げている5つの基本目標が改善していく手助けになるのではないか。2つ目はシンプルで覚えやすいということ。委員の方々は問題に対して感度が高いが、一般の方は問題に対して漠然とした不安を抱えている。記憶に残るには短くて強い言葉がいい。内側から問題を解決する力があるのではないか。これからの12年のビジョンを考えて子どもがわかる言葉が生きた言葉になる。3つ目はポジティブなメッセージということ。将来農家や地元で観光業、起業家になるなど自分のまちを良くしようということは素晴らしいことである。子どもは財産であり、大人の考えは損得などで視野が狭くなりがちであるため、子どもの純粋なアイデアを大人が汲み取り解決するパートナーシップを結べるのであれば素晴らしいまちになる。私は生まれも育ちも北海道だが、小さい頃からクラーク博士が残した「Boys be ambitious (少年よ、大志を抱け)」という言葉を知っている。ニセコの子ども達も大人と一緒に考えて問題を解決できればいいと思う。

【会長】

「住みやすい」という魅力的な言葉をいただいた。

【委員】

◎キャッチフレーズ案

→「美しい環境を守り、心豊かな暮らしを子どもたちの未来に繋げるまちニセコ」

3案考えて一番長い言葉を候補に上げた。「住みやすい」という言葉を「暮らし」という言葉に入れ替えた。住みやすいというと、インフラ整備が整っていて、単純に物理的に満足することを指す。「暮らし」にすることで心豊かな暮らしになり、「心豊か」を加えることで内面的な充足感のあるまちをイメージできると思った。また「未来に繋げるまち」とすることで大人の責任感も表現できると良い。「責任」を基本理念にすると強すぎるので、「繋げる」とした。「子ども達のために」という言葉は子ども達にとっては重い言葉になる。大人が主体となって使う言葉なので、大人が頑張っている姿を見て、私達も頑張ろうという子どもを育てられればいい。

【委員】

◎キャッチフレーズ案

→「子どもたちに残そう この美しい景観と住みやすい町 ニセコ(を)」

皆さんと同じ意見。話し合ううちに皆同じ方向に向かっていると思った。「景観」を使ったのは、毎日見ている景観が素晴らしいと思い、キャッチフレーズに入れた。

【会長】

◎キャッチフレーズ案

→「子どもたちのためにニセコから地球環境を再生しよう」

「子ども」という言葉が未来に託す意味になる。12年後、今の子どもが成年になり、その時もニセコに魅力を持ってほしいという想いがある。「環境を守る」「自然を守る」というのもいいが、人類の大きな課題である地球環境を再生するため、ニセコが模範になろうという意味で記載した。「再生」という言葉はよくないが、地球自体の環境が危ないので何とかしたいという思いで書かせていただいた。

【一般社団法人北海道総合研究調査会（事務局）】

◎キャッチフレーズ案

→「～未来のニセコ人に贈る～自然環境が守られ、美しく、住みよいまちニセコ」

皆さんと議論していく上で「子ども」というのがキーワードだと思っている。また、引き継ぐという意味で「贈る」とした。「自然環境が守られ」や「美しく」というのは皆さんと共通した思い。「調和」ではなく「守る」という言葉をキャッチフレーズの一番上に入れた。「ニセコ人」というのは、元々ニセコにいる方はもちろん、移住した方も「ニセコ人」だと思っている。隣町とは違う独特な気風がニセコにあると感じているので、あえて「ニセコ人」という言葉を使わせてもらった。

【事務局】

◎キャッチフレーズ案

→1.「自然とともに未来を紡ぐ町、ニセコ」

→2.「人と自然と育つ町、ニセコ」

→3.「ニセコの地に責任をもつ。世代を超えて紡ぐ未来。ニセコ町」

思いとしては皆さんと一緒。自然を大切にしたいということと、子ども達も含めてニセコ町の未来を創っていききたいということで3案出した。要素としては一緒だが、なるべく言葉を見た時に解釈の幅が生まれにくいものを使わないようにした。未来という言葉にも子どもや次世代に込めた。1案目の「紡ぐ」という言葉は、自然とどのような関係で未来を創るか、一緒に並行して育てていくというよりも、自然を生かし、守り、関係性を持ちながら未来を創っていくということで使った。2案目は「人と自然と育つ町」と併記することにより、耳に残るようにした。3案目は「責任をもつ」という言葉を使うことで切羽詰まった感じ、これ以上自然を壊すことを許すわけにいけないという思いを込めた。

【委員】

◎キャッチフレーズ案

→「人と自然で つなごう NISEKO」

一言で表現するのはプロの仕事ではないか。人と自然、それぞれのテーマとお互いの関係を大切にしていくことをこの言葉に込めた。子どもがどう願っているかわからないので、押し付けないうよう「人」とした。

【会長】

これからは言葉の組み合わせになるので、組み立てていきたいと思う。まず、似たような言葉をまとめていきたい。「美しい」「景観」「自然環境」は近いワード。「未来につなげる」「次世代」「子ども」も近い。「住みやすい」「暮らし」は一つ。「引き継ぐ」「未来」「次世代」も同じようなワードである。「子ども」は時間的なスケールがあるので将来的にどうするかという問題もある。

【委員】

「自然環境」というと羊蹄山の景観や尻別川のことになる。自然で残されているのは山々の形、あと森林は二次林になるし、農業景観があって今のニセコ全体がある。それを考えると「自然環境」ではなく、「景観」だと思う。

【委員】

ここから先はプロに任せるのがいいのではないか。合成の誤謬ということもあり、合成すると本当に伝えたいことが消えてしまう。

【委員】

同じ意見である。それぞれの方が大切に思うメッセージを組み合わせると、ごちゃ混ぜになってしまう。メッセージが伝わらなければ意味がない。

【委員】

サブタイトルはフォローする形にするといい。

【委員】

「景観」だと捉え方によってきれいな別荘地をイメージする人もいる。環境や農業をベースとした景観と捉えられない人もいると思う。

【会長】

1つは今のニセコは危機的な状況にあるので「守りたい」「伝えたい」というのがある。2つ目はニセコが「住みやすい」「暮らしやすい」という総合的に豊かなことを伝えたい。2つの想いをどう言葉で伝えるか。

【委員】

5回の審議会を振り返り、「自然」は優先順位として落ちることが危惧されている。その時の表現として、誰に何を伝えるのか、それを行動としておこしてほしいのならば、優先順位を決めた方がいい。

【委員】

全体を網羅しなければならないなら、第3次総合計画の基本理念のように抽象度を高くしなければおさまらない。キーワード全体を抜け漏れなく、全てカバーしないといけないという発想は無くしていきたい。

【事務局】

基本的には誰に何を伝えたいかがあったうえで、聞いたときにイメージが連想されるのが優秀なキャッチフレーズである。ここからそれをどう内包するか、または言葉の組合せが重要になってくる。行動変容として誰に何を伝えたいかをここで議論したあとはプロの仕事になってくる。

【委員】

「景色」「暮らし」「仕事」に「人の営み」を併せたものが「情景」と言える。守るとしたら「情景」だと思う。

【委員】

相似形の言葉を未来につなぐ。そのうえで多少アレンジを加える形になる。

【会長】

前回の議論で、一番大きな問題意識は今のニセコを守っていかなければならないという危機感であった。それをちゃんと伝わるようにしなければならない。

【事務局】

町長からは「守る」というのはおかしいのではないかという意見があった。事務局と町長の間で擦り合わせできなかった部分でもある。最終的には審議会の議論で自然環境を「守る」ということをメッセージとして強く伝えたいと話してきたので表現は残した。

【会長】

次の世代に残していくというのもある。

【委員】

私は守れないと思う。土地の所有権を移転することは止められない。建物の色や高さの制限をかけても、羊蹄山の景色を守ることにつながらない。切り口を変えてうまい方向性があるとこれからの12年後につながる。

【委員】

総合計画案の土地開発の状況を見てもらうとわかるが、2022年・2023年は建築申請は少なくなったが、土地取引は非常に活発であり、今後数年にわたって（いわゆる現状の森を伐るような）開発は急増することがほぼ確定している。一方的に自然を守るといっても（法規制の制限内で開発はできるので）強制力はないが、ニセコ町としてメッセージを伝えることは重要だと思う。町長とはニュアンスの部分で思いが違う部分もあるかもしれないが、総合計画ではしっかりと言葉を定めていかないといけない。もしここで「観光と自然を調和させる」と書いたとすると、アンケートに回答し、ワークショップで意見を述べた大勢の町民が、思いが伝わっていないとがっかりすると思う。完全に守るということではできないとしても、そういう方向性が基本目標に入っていることはいい。ただし、キャッチフレーズ／基本理念に「守る」と入れるより、ポジティブな言葉で基本理念を考えた方がいい。

【委員】

完全に守るということとはできないが、皆の想いとして将来に向けて何とかしたい。それが「守る」という言葉だと思うので、大事にしたい言葉である。

【会長】

それだけ危機感が強いということ。

【委員】

子どもも大人も含めて生きやすいまちであってほしいと思う。

【委員】

キャッチフレーズは何のために作るのか、政策や計画を選択する時の物差しになることと町民のまちづくりに示す姿になるのか。知性とバランスをもって成長することはリーダーが行うこと。町民がバランスをもって生活することは難しい。町民は毎日選択を迫られている。「守る」とは環境破壊を伴う開発から守ることになる。

【会長】

誰にメッセージを向けるのか。ニセコの子ども達にこうあってほしいというメッセージにするのか。

【委員】

町民に向けたメッセージにする。ニセコ町に住まわれている人に向けてのメッセージがいい。観光客や外に向けての言葉ではない。

【会長】

今回候補となったのは、自分たちで何とかしたいという言葉が多かった。

【委員】

前はどのようなプロセスで決まったのか。

【委員】

前は町長が数案から組み合わせて決めた。

【副町長】

今まで開発の是非について議論を尽くしてはいないと思う。「調和」という言葉がいいか悪いかは別として、「調和」という要素は必要だと思う。考え尽くしていくと、「調和」は守ることにつながる。悪くないワードだと思っている。

【委員】

ただ、調和ではないと思う。

【委員】

開発がすべて悪いと思っている人はいない。ただ今の開発は行き過ぎていると思っている。少しでも食い止めて、もっと自然を大事にしたいという強い思いがあるので、「調和」では弱い。

【委員】

観光開発や産業と自然は対立構造にある。大規模農業を経営したら生産性は上がるが、生物の多様性は失われる。世界は矛盾に満ちていて、「調和」という言葉で隠しているように感じる。メリットとデメリットを子ども達に伝えていく姿勢が必要。それが大人の責任であり、総合計画のキャッチフレーズの案にも入れた。総合計画の基本目標には「Ⅰ自然環境を守る」、「Ⅲニセコの経済を循環させる」とあるが、この個別計画の中に子ども達に関わっているフレーズがない。基本目標Ⅰの施策にある「経済発展と森林の関わりに学べるしくみづくり」について具体的にはわからないが、子どもが唯一関われることかと思う。経済に関しては子どもが関わるものはない。相反する部分を子どもたちに伝えていけるといい。そうすればキャッチフレーズ通りの計画ができあがる。

【委員】

町長に答申する案なので、変更を希望するなら提出後に町長が変更すればいい。分野ごとに個別の政策や計画があるので、キャッチフレーズがあればよい。

【事務局】

委員の意見と今日出たキーワードを町長に答申する。

【委員】

キャッチフレーズを決めるプロセスとしてはいいが、キャッチフレーズを決めた後に、浮いた存在にならないよう一度見直してほしい。ボトムアップすることは大事だが、決めたものに対してどのように融合させるかのプロセスは必要。組み立ての順番としてはいいかもしれないが、基本理念と個別計画がつながっているか見直して考える必要がある。

【会長】

私たちの意見を提出し、あとは町長に任せるということでよろしいか。(一同賛成)

【事務局】

委員からの意見と同じ方向性のキャッチフレーズであればメールでお知らせする。3/1 までには答申する。パブコメは「仮称(別紙)」として候補案を記載する。

②第6次ニセコ町総合計画素案

※HITより説明 資料3

【委員】

「ニセコ町森林ビジョン実行計画」には「検討する」「調査する」という言葉が並んでいた。ニセコ町は瞬発力がなく、いつになったらやれるのかという意見があった。紐づく計画がそのよう

な状態だと、カッコいい言葉を並べても実行できない。1つでも2つでもいいので、これだけはしっかりやるという施策と計画が紐づいて行ってほしい。いい情報と悪い情報、どちらもそのベクトル合せが必要であり、都合のいい情報にならないよう気を付けるべきである。人口推移のデータがあるが、この5年間日本人が減ってきており、全体としては外国人が増えている。おそらく10年後には日本人の人口が4,000人を切るか切らないかのところまでくる。外国人は観光に従事するために来ているが、問題なのはバスの運転手や除雪オペレーター、エッセンシャルワーカーの不足であり、危惧している。いい社会を目指すとともに、現実や課題を見て最も優先するのは何かを取捨選択して人を充てないと、役場職員もすべてはできず大変になってくる。税金の無駄遣いにもなる。大事なものをフォーカスする作業はこれから必要になる。

【事務局】

総合計画は4年に1回見直しする。

【会長】

その時に見直し、続けて行ってほしい。

【委員】

第5次の総合計画は抽象的な言葉も多く、取組内容として盛沢山であった。委託を受けて個別計画を策定するときには、総合計画を見ながら矛盾しないように作らなければならないが、第5次総合計画の場合はその作業が難しかった。今回、基本目標の説明が短くまとめられ、計画を作る側からするととても見やすい指標になり、道標になると評価している。総合計画にあれもこれもと望むと大きくなってしまい、町民が誰も読まなくなったという経緯があった。施策が足りなければ見直しの時に補充していけばいい。

【委員】

施策はむしろもっと絞っていいと思っている。現状や課題、緊急度等にフォーカスして、それに対してお金の使い方も考えていただければと思う。

【会長】

実際に走らせていくことが重要である。

【委員】

先程のニセコ町の写真だが、キャプションを入れるといいのではないかな。

【事務局】

対応する。

【会長】

長い間ありがとうございました。これで終わりということではなく、意見をいただきながら引き続きお願いしたい。

③今後の予定

【事務局 大野主査】

今後の予定としては、2/13に町民講座、2/10～2/25までパブコメを募集し、3/1に町長に答申する予定である。町長への答申の際は、審議委員に参加してほしい。3月中に議会に提出し、来年度から第6次総合計画を開始する。

5 閉会

以上